第 1 学年 6 組英語科学習指導案

Matsumoto Mitsumasa

署名は検証されていません。

電子署名者 : Matsumoto Mitsumasa
DN: cn=Matsumoto Mitsumasa, o=Higashi Matsuyama Kita J.H.S(JTE in Saitama), ou=English, c=JP
日付 : 2002.12.20 00:46:40 +09'00'

場所　情報教育ルーム
日時　平成 14 年 7 月 4 日
校時　第 3 校時
指導者　松本 光正

1．題材　Unit 4 「日本大好き」　（New Horizon English Course　book 1）

2．題材等について

（1）生 徒 観

1 年 6 組は全体的に消極的なクラスである。授業に対して比較的積極的な生徒もいるが、英語に対する発話行為やコミュニケーション活動、発表活動等意欲に欠ける生徒も少なからずいる。男子は学力面においての隔たりが大きいと同時に落ち着きがない生徒が数名いる。反面、女子は比較的学習意欲が高く落ち着いている。家庭学習の定着のしていない生徒も多数存在している。

（2）題 材 観

本課では「折り紙」「好きな教科」「朝食」を題材としており、「折り紙」については「日本文化を英語で外国（の人）に紹介しよう」の第一段階として生徒に重視させたい。英語で日本を紹介していくことを生徒に意識させるには大変良い題材である。また、「好きな教科」や「朝食」については、海外の教育課程（時間割）や朝食（食生活事情）などの異文化を紹介できる場面である。

（3）指 導 観

学習理解度下位の生徒と上位の生徒に格差が広がりつつある。個別の学習形態も取り入れていきたいが、まずは入門期として生徒の英語に対する興味・関心・意欲の向上に全力を注ぎたいと考える。週に 1、2 回のパソコン学習を導入し、楽しく英語基礎学力が身につくように工夫していきたい。特に文法指導などはパソコンを介して行ったほうが楽しくできる。「英語嫌い」をつくらないこと、生徒の基礎学力を保証していくことが現時点での優先的指導事項であると考える。

3．指 導 目 標

（1）本時の言語材料（疑問詞 what）の理解と運用
（2）本時の言語材料を使った生徒の意欲的な発表活動
（3）英語学習に対する興味関心意欲の育成
（4）英語を使って簡単なコミュニケーションを図ろうとする姿勢態度の育成

4．指 導 計 画 と 評 価 規 準・基 準（本時は第一時）

月	単元	ページ	タイトル/題材・話題	時数 単元	時数 パート	パート名	到達目標	評価の重点 関心意欲態度 L	S	R	W	表現 S	R	W	理解 L	R	言語文化の知識 L	S	R	W	本校における評価規準とその具体的な評価基準（A/B）	評価方法等 自己評価・相互評価・観察法・分析 自	相	観	分
7	Unit 4	pp. 34～39	日本大好き 内　容 デミとマークの対話。話題は「折り紙」「好きな教科」「毎日の朝食」である。折り紙，日本語，和食，と日本に関係のある話題が続く。	3	1	1	言語 ある物を見て，それが何であるかを尋ねたり，答えたりすることができる。 言語 What is ...? の文と応答の形・意味・用法を理解し，表現できる。		◎			◎			○		◎	◎			・What's this/that?を使った Interview Game において正しい英語で 10 分で全体数の半分近くとコミュニケーションできた場合(A)、理解はしているが、コミュニケーションが極端に少ない場合(B) ・What's this/that?とその答え方 It's....が理解され、Interview test 等で 8 割以上の正答である場合(A)、5 割～8 割未満の場合(B)	○	○	○ ○	○

7	Unit 4		**設定理由** 特に教科と朝食という話題は 1 年早期の段階で必須のものと考え，ここに配置した。Unit 3 の話題（＝スポーツ，音楽，通学手段など）にこれらが続くことにより，自己表現の幅が大きく広がることにもなる。	3	**1**	**2**	**言語** 好きな教科について相手に尋ねたり，答えたりすることができる。 **言語** be 動詞の形容詞補語の文の形・意味・用法を理解し，表現できる。 **言語** be 動詞の文の否定文の形・意味・用法を理解し，表現できる。	○	◎ ◎			◎		○		◎		◎	◎	◎	・ペアになって What's this/that?が自然にコミュニケーションでき、発表が正しくできる場合(A)、ペアの練習ができる場合（B） ・Interview game で全体数のほぼ半数位とコミュニケーション活動できた場合(A)、数名とコミュニケーション活動できた場合(B) ・be 動詞並びにその否定文等が理解できInterview test 等で 8 割以上の正答が確認できる場合(A)、5 割～8 割未満の場合(B)	○ ○	○ ○	○	○
					1	**3**	**言語** 毎日の朝食について相手に尋ねたり，答えたりすることができる。 **言語** How about you?の用いられる場面を理解し，使うことができる。 **言語** What do you ...?の文と応答の形・意味・用法を理解し，表現できる。		○			◎		○ ◎		◎		◎	◎	◎	・ペアになって How about you?が自然にコミュニケーションでき、発表が正しくできる場合(A)、ペアの練習ができる場合（B） ・What do you…?並びにその応用文等が理解できInterview test 等で 8 割以上の正答が確認できる場合(A)、5 割～8 割未満の場合(B) ・True & False に対して 8 割以上の正答の場合(A)、正答が 5 割～8 割未満の場合(B)	○		○	○ ○

5．本時の学習

	項目	学習活動・学習内容	指導・評価の留意点	補助教材
10 分	導入	（ペアワーク） ・ゲームを通して本日学ぶ言語材料に慣れ親しむ ・言語材料の確認	What に対する答え方や答えをしっかりと聴くこと <L>関心意欲態度、観察	Internet ﾜｰｸｼｰﾄ
5 分	展開 1.	（Questions & Answers） ・教師が"What's this? ”と言って提示する物品について、It's....で挙手をして答える	What に対する答え方が理解できているか <L>表現、理解、観察	教材提示装置
10 分	展開 2.	（インタビューゲーム） ・What's this / that ?を使ってできるだけ多くの友達に Interview してサインをもらう	積極的にコミュニケーションを図ろうとすること <S>関心意欲態度、相互評価	評価カード 教材提示装置
20 分	展開 3.	（インタビューテスト） ・「日本文化を紹介する絵」について教師と会話する	教師の英語を理解してそれに答えようとすること <S/L>言語文化知識、分析	お絵かきソフト(Paint)
5 ～ 7 分	まとめ	（疑問詞の理解） ・アプリケーションソフトで疑問詞 What や Who についてその意味と使い方を理解する	疑問詞の使い方が理解できたか確認 <W/R>言語文化知識、分析	グループウェア（みんなで Study）

備考：男子 22 名、女子 15 名。